

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） (○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他)
北海道	足踏み状態となっている	<p>○設備投資は、維持・更新が中心であるが、自動車部品等で能力増強投資などもみられ、持ち直しの動きがみられる。</p> <p>○雇用動向は、有効求人倍率は低水準ながら引き続き前年を上回っており、持ち直しの動きを続けている。</p> <p>▲生産は、自動車部品、セメントなど一部で堅調であったが、全体的には弱含み傾向。</p> <p>▲個人消費は、自動車販売が好調で、コンビニも底堅い動きとなっているが、百貨店、家電販売は低調で厳しい。</p> <p>□観光は、来道客数が震災前に回復するなど持ち直しの動きがみられるが、国際問題が長引くことによる影響を懸念する声もある。</p> <p>□エコカー補助金は、期待したほどの駆け込み需要はなかったものの、一定の経済効果があった。一方、終了後の落ち込みの懸念や、減税の恒久化を期待する声もある。</p> <p>□夏季の節電は、照明の抑制やLED化、空調管理等の取り組みが中心で、生産活動への直接的な影響はなかったが、今後、冬季にかけて電力不足による地域経済への影響を危ぶむ声強い。</p>
東北	東日本大震災からの回復が続いているものの、一部に弱含みの動きがみられる	<p>○個人消費は、復興需要が一巡したものの、全体として堅調に推移している。</p> <p>○百貨店では、主力の衣料品、スーパー、コンビニでは飲食料品が堅調に推移している。</p> <p>○新車販売台数は、エコカー補助金効果などにより、普通、小型、軽自動車の前年同月を上回っている。</p> <p>▲家電販売では、地上デジタル放送完全移行に伴い買い換えられたAV家電の需要減に加え、震災による白物家電の買い換えの一巡から落ち込んでいる。</p> <p>○雇用は、復興需要等で求人倍率は高水準を維持しており、改善の動きが続いている。</p> <p>▲被災沿岸地域では求人側と求職者側相互が求める条件のバランスが悪く、雇用は未だに厳しい状況にある。</p> <p>▲生産は弱含み傾向。</p> <p>○輸送機械は、乗用車の販売が好調なことから高水準で推移している。</p> <p>▲一般機械は、海外の顧客を中心に設備投資を抑制する動きや、円高により海外に生産拠点を移すなどの動きがみられる。</p> <p>▲電子部品・デバイスは、海外経済の需要減少や円高により海外メーカーとの競争が厳しい。</p> <p>□設備投資は、新規・増産投資の動きがあるものの、一部で下方修正。</p> <p>○製造業では、震災からの設備復旧や維持・更新のほか、新規・増産投資、研究開発投資の動きが続いており、化学、一般機械では生産能力拡大、研究開発への投資、情報通信機械では新製品生産への投資がなされている。</p> <p>○非製造業では、設備の維持・更新、合理化・省力化の動きが多く、また、小売業の一部では復興需要等による新規出店への投資がみられる。</p> <p>▲海外市場の先行き不透明感等から、製造業の一般機械、電子部品・デバイス、情報通信機械の一部では、設備投資額を下方修正する動きもある。</p> <p>□設備投資の平成25年度計画については、未定とするところが多い。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
関東	足踏み状態となっている	<p>□設備投資は、大企業製造業及び非製造業では国内、海外ともに増加との声もあるが、中小製造業を中心に維持・更新にとどまるところが多い。</p> <p>□雇用は、輸送用機械製造業や非製造業を中心に改善傾向が続いており、厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。</p> <p>▲生産は、輸送機械関連産業がエコカー補助金の効果により、好調を維持しているものの、国内需要は終盤にきて失速。また、電子部品・情報家電等は一部を除き弱い動きになっているなど、総じてみれば横ばい傾向にある。</p> <p>▲個人消費は、猛暑で飲料、アイスクリーム等の冷感食品や暑さ対策グッズは好調だったものの、残暑により秋物衣料が不振だったことに加え、電力料金の値上げや消費増税の決定等により、消費マインドが低下しつつあることから、横ばい傾向にある。</p>
中部 (東海)	足踏み状態となっている	<p>○エコカー補助金効果は大きいとの声が多く聞かれる。車種によってバラツキはあるものの、特にハイブリッド車や軽自動車为好調。</p> <p>○百貨店は、クリアランスセール分散化は盛り上がり欠けたものの、大型リニューアルの効果や高級品の購買意欲の高まりは続いている。</p> <p>▲生産は、主力の自動車関連が、エコカー補助金などの政策効果から高水準で推移し、鉄鋼業など多くの業種に波及したものの、補助金の終了や輸出環境の悪化が相まって、緩やかに減少している。電子・デバイスは、スマートフォン向けの需要が引き続き旺盛なものの、市況の影響を受けやすい製品は値崩れから生産調整を実施。</p> <p>▲不安定な中国情勢を受け、生産や観光などにマイナスの影響が生じる恐れあり。</p> <p>▲自動車販売は、エコカー補助金などの効果から持ち直したものの、駆け込み需要はほとんどみられず減速感がある。</p> <p>▲雇用は、製造業を中心に期間従業員が増加したことから改善したものの、エコカー補助金終了に伴う生産減を見越して求人需要は頭打ちの状況。</p> <p>□自動車の減産は、幅広く地域の産業・経済に影響するため、中小企業経営の圧迫や消費の冷え込みを懸念する声が多い。車体課税の軽減など恒久的対策への期待が高い。</p> <p>□夏季の節電の地域経済への影響は、製造業では従前の対策に加え、コジェネ等自家発の拡充、より高性能な電力制御システムの導入などを実施。非製造業では、空調の設定、消灯・減灯に加えて、徐々に照明のLED化や空調設備の省エネ化が進みつつある。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
中部 (北陸)	持ち直しの動き が弱まっている	<p>○医薬品は、ジェネリック医薬品、新薬、受託製造とも好調。</p> <p>○電子部品は、スマートフォン向けが引き続き好調で、自動車向けは高稼働ながら足元の受注が減少。</p> <p>○住宅関係では、今後、消費税増税前の駆け込み需要が見込まれる。</p> <p>○家電販売では、テレビ等は低迷しているものの、白物家電のエコ替えがみられ、エアコン・スマートフォンは引き続き好調。</p> <p>▲工作機械は、新興国の自動車・エネルギー産業向けや米国の建機・航空機向けが堅調なものの、欧州向けは市場が縮小傾向。</p> <p>▲繊維は、自動車向けで増加していたが足元では減速感がみられ、昨年ブームだった衣料向け高機能素材の需要も落ち着いている。</p> <p>▲百貨店販売は、7月前半の低気温やセールの分散化に伴い夏物商品が伸びず、7月下旬からは猛暑により客足が減少し、秋物商品も振るわなかった。</p> <p>▲スーパーでは、客単価は横ばいだったものの、来店客数は減少。競合店が多いことに加え、コンビニやドラッグストアの影響もあると思われる。</p> <p>▲温泉宿泊客数は、東京スカイツリーの開業、東北への復興支援ツアー、九州新幹線などへの観光客の分散がみられることから、減少している。</p>
近畿	足踏み状態と なっている	<p>○生産は、スマートフォン、タブレット端末関連や、気温の上昇に伴いエアコン、冷蔵庫等が堅調に推移した。</p> <p>○新興国を中心に海外での生産増強のための投資を拡大する動きがみられる。</p> <p>○今夏も海外旅行が好調で、百貨店では高額品が堅調に推移している。自動車販売は、減速感がみられるもののエコカー補助金効果で前年を上回っている。</p> <p>▲薄型テレビ関連は一部で生産調整が進んできたものの依然として低調で、関連機器の投資も控えられている。</p> <p>▲欧州経済の低迷等を受け、半導体関連も厳しい状況が続いており、半導体メーカーは設備投資を抑制している。</p> <p>▲生活必需品については節約志向が強まっていることからスーパーは弱めの動きとなっているほか、家電販売はテレビ・DVDが減少を続けており厳しい。</p> <p>□自動車関連はエコカー補助金効果から堅調に推移するも、一部に反動の影響がみられる。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
中国	やや弱含んでいる	<p>▲鉄鋼は、自動車向けはエコカー補助金の影響もあり堅調だが、新規受注が低下している船舶向けや市況が悪化した輸出向けで減少し、やや弱含んでいる。</p> <p>▲自動車は、一部車種が生産好調なものの、輸出の減少や、モデルチェンジによる生産場所の他地域への移転などが影響し、全体としてはやや減産。</p> <p>▲有効求人倍率は、中国地域全体では0.93（24年8月）となり、持ち直しの動きに足踏みが見られる。また、正社員の有効求人倍率は中国地域各県とも低水準で推移し、依然として厳しい雇用状況が続いている。</p> <p>□個人消費は、お中元や衣料品は低調に推移。前年アナログ停波に向けてテレビの買い替えが進み、当期は売上が低調。エコカー補助金は、終了に際して前回ほど高い駆け込み需要はみられなかったが販売増には貢献。また、盛夏商品は猛暑となった8月に良い動きをみせた。</p> <p>□節電によって管内の生産活動等に大きな影響はみられなかった。</p> <p>□エコカー補助金は生産及び販売の増加に寄与。ただし、前回のような高い駆け込み需要はなく、また、終了後の販売減による影響を懸念。</p>
四国	緩やかな持ち直しの動きに一部減速感もみられる	<p>▲業況は、輸送機械（造船）、繊維、パルプ・紙・紙加工品、化学等で、円高の長期化や海外需要の低下に加え、アジア市況の一服感などから、緩やかな持ち直しの動きに一部減速感もみられる。</p> <p>□生産は、食料品、窯業・土石、電子部品・デバイスでは堅調に推移、一方、パルプ・紙・紙加工品で印刷用紙・情報用紙等がやや減少、化学では海外需要の低下で合繊原料、ポリカーボネート等が減少するなど、おおむね横ばいで推移している。</p> <p>□設備投資は、製造業の一部で積極的な投資がみられるものの、円高による先行き不透明感や市場の悪化等から設備の維持・更新に絞るほか、実施時期を次年度に先送りするなど、抑制的で全体に弱い動きとなっている。なお、節電や省エネ関係の投資が多くの企業で行われている。</p> <p>□雇用は、人員を「適正」とする企業が大半を占めている。今後は、一部に採用拡大の動きがみられるなど、緩やかながら持ち直しの動きがみられる。</p> <p>□個人消費は、家電販売は依然として低調、百貨店販売は主力の衣料品等の動きが鈍いものの、乗用車販売はエコカー補助金の効果などから堅調、サービス消費（旅行）は回復傾向が持続しているなど、一部で持ち直しの動きがみられる。</p> <p>□節電要請に対し、対策は、空調・照明での対応が中心、生産時間帯等のシフトや自家発電の導入等もみられる。節電対策による生産への影響は少ないものの、自家発電の設置等でコストが増加した企業がみられる。</p> <p>□エコカー補助金の影響については、自動車部品関連企業などで好影響がみられたものの、補助金終了が景気に及ぼす影響を懸念する声がある。</p>

地域	全体景況	個別の動向の具体例（主なコメント） （○：プラス要因 ▲：マイナス要因 □：その他）
九州	持ち直しの動きが弱まっている	<p>○設備投資は、持ち直しの動きがみられる。抑制した前年の反動もあり前年より増加するという声が多くなっている。製造業では、補修・維持更新が中心だが、自動車では新型車の生産開始に伴い設備増強。非製造業では、商業施設のリニューアルの動きもみられる。</p> <p>○雇用環境は、厳しいながらも持ち直しの動きが続いている。有効求人倍率、有効求人数ともに緩やかに上昇傾向にある。製造業では、食料品製造の求人が増加するものの、堅調に推移してきた輸送用機械で一服感がみられる等、全体的にやや足踏み状態となっている。非製造業では、観光需要等を背景に飲食サービス、卸・小売が好調であり、医療・福祉等でも引き続き求人が増加している。</p> <p>○個人消費は、緩やかに持ち直している。猛暑の影響で主力の飲食料品等が好調に推移し、スーパー、コンビニが売上増。百貨店でも高額品は堅調に推移。旅行需要、マンション販売も引き続き好調に推移している。</p> <p>○エコカー補助金は、自動車業界の生産・雇用に好影響。輸出増もあり、7月の生産は過去最高を記録。国内販売も好調に推移。他産業（半導体、電気機械、人材派遣等）へも好波及。補助終了後の反動減を懸念する声がある一方、九州の自動車メーカーは輸出比率が高い上、新型車受注も好調な事から影響は限定的との意見あり。</p> <p>□夏季の節電対策については、鋳工業生産が増える中、空調・照明等の抑制や自家発電の導入等、各社の懸命な経営努力により事業活動への影響を最小限に止めた。しかしながら自家発電導入費や、燃料費負担によりコスト増となったとの声や、停電を危惧しながらの操業環境を問題視する声も。更には、来夏の電力需給を憂慮する声や、設備投資・消費マインドの低下を懸念する声も聞かれた。</p> <p>▲生産は、弱含んでいる。国内外の半導体需要の低迷から電子部品・デバイスや一般機械に弱い動きが続いており、鉄鋼や化学等においても需要の低迷、市況の悪化により厳しい状況がみられる。エコカー補助金終了後も引き続き高水準の稼働が期待された輸送機械でも、今後は中国向けに大幅な減産が見込まれる。</p> <p>▲中国における反日暴動の影響等により、中国向け製品の販売低下、部品調達に支障が生じること等を懸念する声も。また、中国向け旅行の行き先を変更・キャンセルし、国内旅行に振り替える動きもみられている。</p>
沖縄	緩やかに改善している	<p>○観光客数は、7ヶ月連続で前年同月実績を上回った。国内客では相次ぐ台風の襲来により旅行キャンセルがあったものの、個人、団体共に旅行需要が堅調に推移、外国客では空路の新規就航や増便、大型クルーズ船の寄港により増加傾向。</p> <p>○個人消費は、百貨店・スーパーは台風の影響や競合店の競争による客単価の減少、夏物衣料品がピークを過ぎて伸び悩んだものの、お中元ギフトなどの食料品が好調。コンビニエンスストアは台風により清涼飲料水等の売れ行きが伸び悩んだものの、観光客数の増加等により堅調に推移。</p> <p>▲中国人観光客の旅行キャンセルが相次ぎ、今後の影響を懸念する声が聞かれる。</p>